

I C T活用工事（舗装工）試行要領

令和5年5月

山口県農林水産部

目 次

1	I C T活用工事の概要.....	1
2	I C T施工技術の具体的な内容.....	1
3	I C T活用工事の対象工事.....	2
4	I C T活用工事の発注方式・実施内容.....	3
5	発注における入札公告等.....	3
6	実施に係る手続き.....	4
7	工事費の積算.....	4
8	監督・検査.....	4
9	工事成績評定.....	5
10	I C T活用工事の導入における留意点.....	5
11	I C T活用工事普及推進のための取組み.....	6
12	その他.....	6
13	附則.....	6

1 ICT活用工事の概要

ICT活用工事とは、建設現場の生産性向上を目的として、建設生産プロセスの各段階において、次に示すICT施工技術を活用する工事である。

- ① 3次元起工測量
- ② 3次元設計データ作成
- ③ ICT建設機械による施工
- ④ 3次元出来形管理等の施工管理
- ⑤ 3次元データの納品

2 ICT施工技術の具体的な内容

ICT施工技術の具体的な内容については、次の(1)～(5)によるものとする。

なお、ICT活用工事（舗装工）の実施に当たっては、山口県土木工事共通仕様書、山口県土木工事共通仕様書（農村整備部編）、山口県土木工事共通仕様書（森林土木編）、山口県土木工事施工管理基準、山口県土木工事施工管理基準（農村整備編）及び農林水産省・国土交通省が定める要領等（別添1）に基づいて行うものとする。

(1) 3次元起工測量

設計照査に用いる連続的な地形データを取得するため、次のア～オに示す方法により3次元測量を行うものとする。

ア 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量

イ トータルステーション等光波方式を用いた起工測量

ウ トータルステーション（ノンプリズム方式）を用いた起工測量

エ 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量

オ その他の3次元計測技術による起工測量

(2) 3次元設計データ作成

発注者が貸与する発注図データを用いて、3次元出来形管理、ICT建機による施工及び工事測量等で活用するための3次元設計データを作成する。

(3) ICT建設機械による施工

(2)で作成した3次元設計データを用い、次に示すICT建設機械を作業に応じて選択して施工を実施する。

ア 3次元MCモーターグレーダ

イ 3次元MCブルドーザ

※MC：「マシンコントロール」の略称

(4) 3次元出来形管理等の施工管理

(2)で作成した3次元設計データを用いて、次のア～オに示す方法により、出来形管理を実施する。

ア 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理

イ トータルステーション等光波方式を用いた出来形管理

ウ トータルステーション（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理

エ 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理

オ その他の3次元計測技術による出来形管理

(5) 3次元データの納品

3次元施工管理データを工事完成図書として電子納品する。

3 ICT活用工事の対象工事

ICT活用工事（舗装工）の対象工事は、次の(1)に示す工種を含む舗装面積 1,000m²以上の新設工事のうち、発注者が設定した工事とする。ただし、(2)に該当するものは、対象としない。（別添2参照）

(1) 対象工種

- ・アスファルト舗装工
- ・半たわみ舗装工
- ・排水性舗装工
- ・透水性舗装工
- ・グースアスファルト舗装工
- ・コンクリート舗装工(2) 適用

対象外

ア 橋面舗装

イ 山口県土木工事施工管理基準に基づく出来形管理を行わないもの

（例）維持・補修等

ウ 緊急を要するもの

エ 随意契約によるもの

オ 予算上の制約があるもの

(3) 留意事項

次の事業については、事前に事業主管課と協議すること。ア 災害復旧事業

4 ICT活用工事の発注方式・実施内容

(1) 発注方式

ICT活用工事（舗装工）の発注方式は、契約後、受注者がICT活用工事の実施を希望した場合に、発注者との協議を経て実施する「受注者希望型」とする。

なお、ICT活用工事（舗装工）として発注していない工事において、契約後に受注者からICT活用工事の実施の申し出があった場合は、受発注者の協議により事後設定することができるものとする。

(2) 実施内容

受注者は、ICT施工技術のうち、②3次元設計データ作成、④3次元出来形管理等の施工管理及び⑤3次元データの納品を必ず実施するものとする。

表層工については、①3次元起工測量及び③ICT建設機械施工を実施し、④3次元出来形管理は面管理を実施するものとするが、出来形管理のタイミングが複数回にわたることにより一度の計測面積が限定される等、面管理が非効率になる場合は、監督職員との協議の上、従来手法での出来形管理を行ってもよい。また、降雪・積雪によって面管理が実施できない場合においても、管理断面及び変化点の計測による出来形管理が選択できるものとする。ただし、完成検査直前の工事竣工段階の地形について面管理に準じた出来形計測を行い、⑤3次元データの納品を必ず実施するものとする。

表層工以外については従来手法での管理を実施してもよい。

表－1 ICT活用工事（舗装）の実施内容

ICT施工技術	必須・選択項目の区分
① 3次元起工測量	○
② 3次元設計データ作成	●
③ ICT建設機械による施工	○
④ 3次元出来形管理等の施工管理	●
⑤ 3次元データ納品	●

●：必須 ○：選択可

5 発注における入札公告等

発注者は、ICT活用工事の発注にあたって、入札公告及び施工条件書に「ICT活用工事（舗装工）・受注者希望型」であることを明記する。

-

6 実施に係る手続き

受注者は、ICT活用工事を実施する意向がある場合は、契約後、施工計画書の提出までに発注者が指定したICT施工技術及び実施を希望するICT施工技術について、ICT活用工事計画書（様式1）に具体的な実施内容及び対象範囲等を記載し、発注者と協議を行うものとする。

発注者は、受注者と協議が整った内容について、ICT施工技術の実施を指示するものとする。また、指示した内容については、適切に設計変更を行うものとする。

受注者は、ICT施工技術の実施内容について、施工計画書に記載するものとする。

（別添3参照）

7 工事費の積算

(1) 当初積算

ICT活用工事（舗装工）の対象工事は、当初は、通常の工事として積算し、発注するものとする。

(2) 変更積算

契約後、受注者からの提案により受発注者協議を経てICT活用工事を実施する場合は、現場でのICT施工の実績により設計を変更し、落札率を乗じた価格により変更契約を行うものとする。

(3) 積算基準

ICT活用工事（舗装工）の積算は、「土地改良工事積算基準（土木工事）」、「治山林道必携積算・施工編」、「土地改良工事積算基準（調査・測量・設計）」、「治山林道必携 調査・測量・設計編」、「山口県設計標準歩掛表」、「山口県業務関係積算基準及び標準歩掛表」、「情報化施工技術の活用ガイドライン（別紙）（農林水産省）」及び「ICTの全面的な活用の推進に関する実施方針（別紙）（国土交通省）」によるものとする。これらに掲載がないもの及び適用範囲を超える場合については、見積りによるものとする。

また、3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとする。なお、丁張の設置等の費用などICT活用工事の実施に伴い不要となる費用がある場合には、これを控除した必要額を適正に積み上げるものとする。

8 監督・検査

ICT活用工事の監督及び検査にあたっては、山口県土木工事施工管理基準、山口県土木工事施工管理基準（農村整備編）及び農林水産省・国土交通省が定める要領等（別添1）に則り実施するものとする。監督職員及び検査職員は、受注者に従来手法との二重管理を求めないものとする。

9 工事成績評定

I C T活用工事の工事成績評定については、「工事成績採点の考査項目の考査項目別運用表（土木工事用）」の「創意工夫」の最高点を3点から5点に、「工事特性」の最高点を6点から4点に変更し、次のとおり評価するものとする。

- (1) I C T施工技術の①～⑤の全てを実施した場合創意工夫【施工】で2点を加点する。
- (2) I C T施工技術のうち、必須項目（②、④、⑤）を実施した場合創意工夫【施工】で1点を加点する。
- (3) I C T活用工事を中止した場合
受注者の責めに帰すことができない事由により I C T活用工事を中止した場合については、加点対象とせず減点を行わない。

10 I C T活用工事の導入における留意点

受注者が円滑に I C T施工技術を活用できる環境整備として、次の措置を行うものとする

- (1) 3次元データ等の作成
発注者は、従来基準による2次元の設計データにより I C T活用工事を発注した場合は、契約後の協議において「3次元起工測量」及び「3次元設計データ作成」の実施を受注者に指示し、これにかかる経費を工事費にて当該工事に変更計上するものとする。
- (2) 3次元データ等の貸与
発注者は、詳細設計業務において、3次元測量データ及び3次元設計データを作成した場合は受注者に貸与するものとする。この場合において、3次元設計データの加工等が必要となった場合は、その実施を受注者に指示し、これにかかる経費を工事費にて当該工事に変更計上するものとする。
- (3) 関連施工工種の取扱い
舗装工事とあわせて関連施工工種を I C T活用工事として実施する場合は、関連施工工種についても3次元設計データを作成するものとする。これにかかる経費については、(1)(2)と同様に扱う。
- (4) 出来形管理写真管理について
3次元出来形管理を行う場合は、山口県土木工事施工管理基準（写真管理基準）に基づき、従来の方法よりも出来形管理写真の撮影頻度を減らすことができる。

11 ICT活用工事普及推進のための取組み

受注者は、ICT活用工事の推進を目的として、山口県 i-Construction 推進連絡会
又は山口県が主催する現場見学会等の実施に協力するものとする。

12 その他

この要領に定めのない事項については、発注者、受注者双方が協議して定めるものとする。

13 附則

この要領は、令和4年11月1日から施行する。

この要領は、令和5年 5月1日から施行する。

別添 1 ICT活用工事（舗装工）に適用する要領等

別添 2 ICT活用工事（舗装工）の発注の流れ

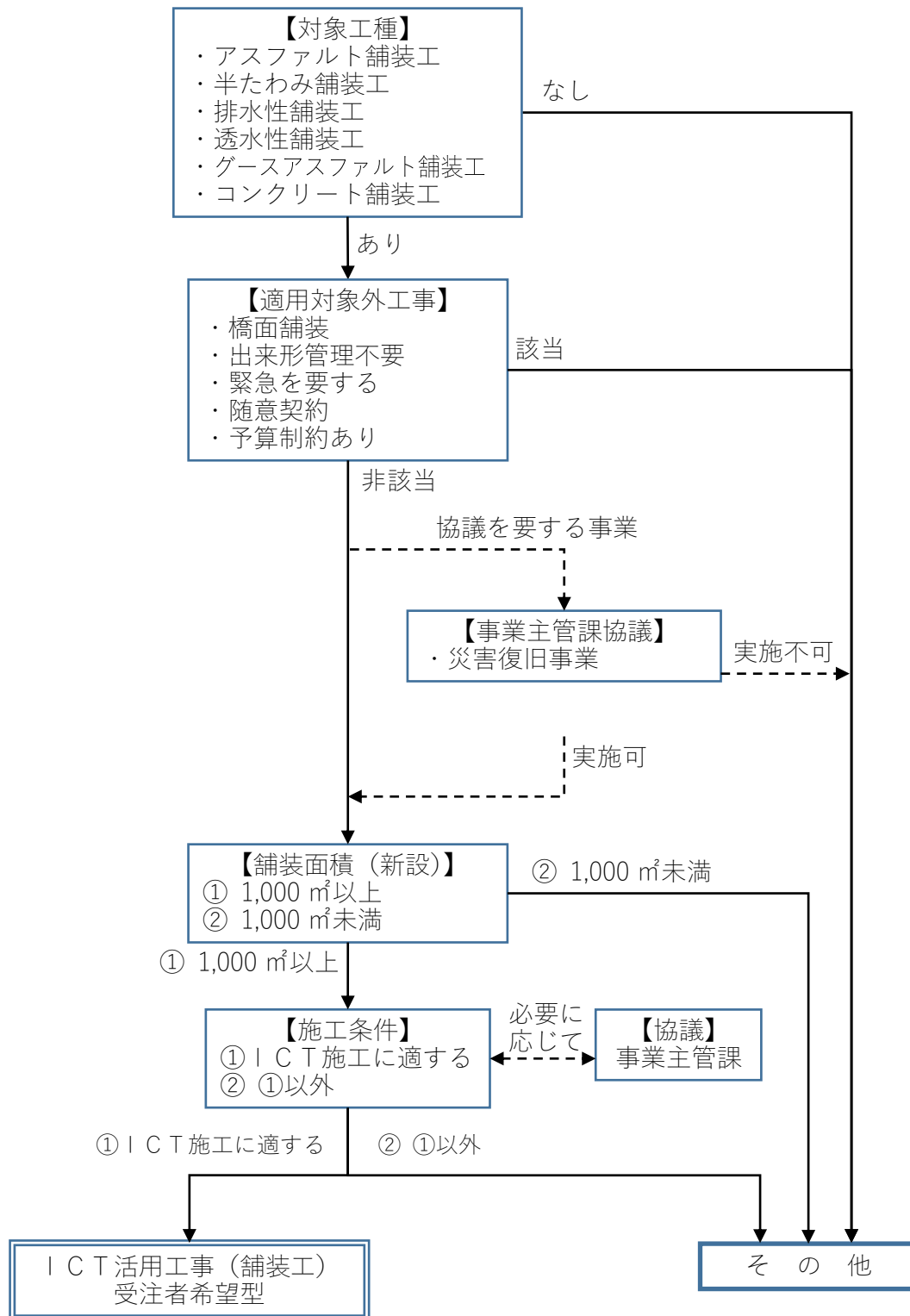
別添 3 ICT活用工事（舗装工）の実施手続き

別添 4（様式 1）ICT活用工事計画書（舗装工）

I C T活用工事（舗装工）に適用する要領等

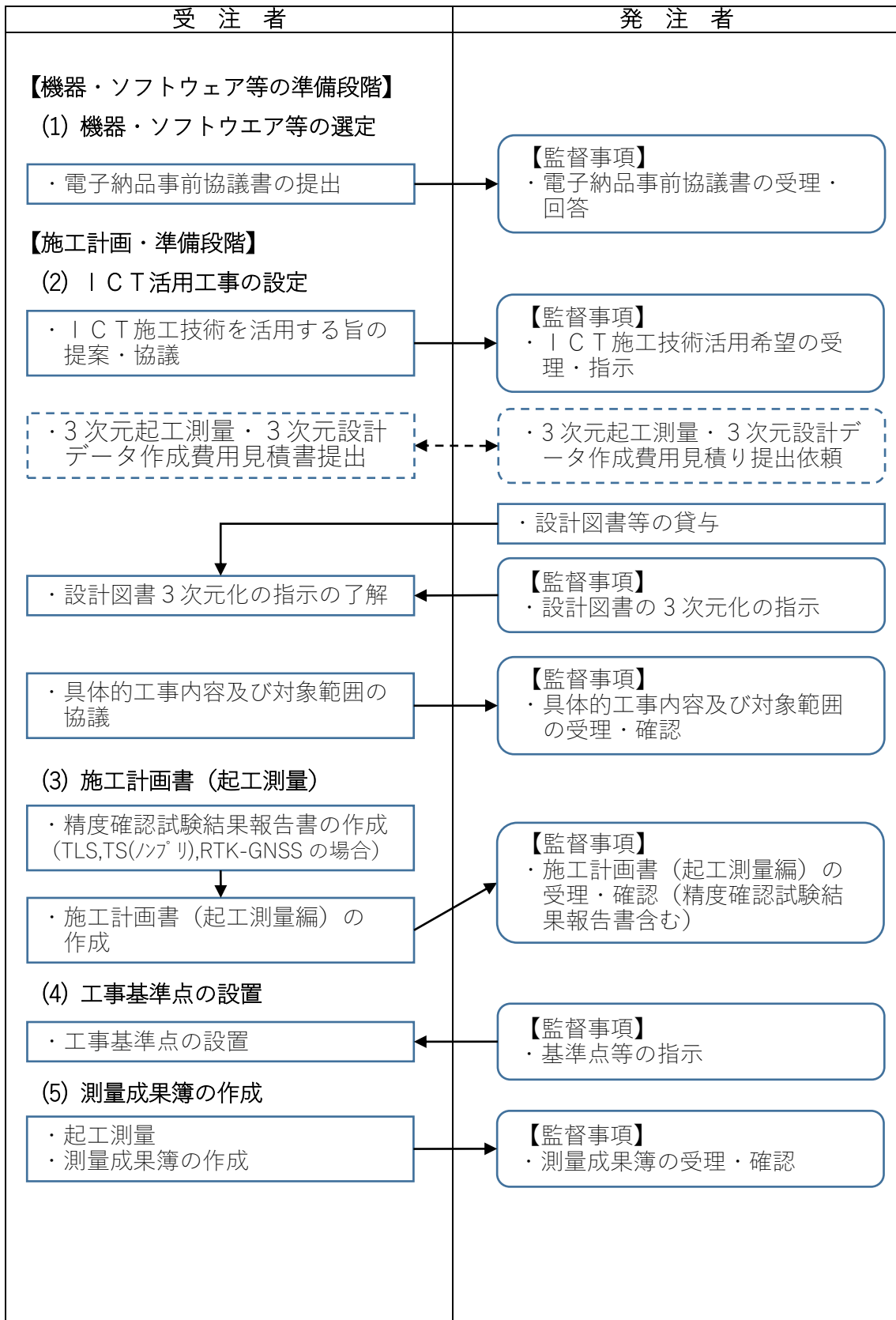
	名称	
積算	情報化施工技術の活用ガイドライン 情報化施工技術の活用ガイドライン（別紙） I C Tの全面的な活用の推進に関する実施方針 I C Tの全面的な活用の推進に関する実施方針（別紙）	農林水産省 国土交通省
測量	地上レーザースキャナを用いた公共測量マニュアル（案）	国土地理院
施工管理	3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）舗装工編（第3編）	国土交通省
監督・検査	地上型レーザースキャナを用いた出来形管理の監督・検査要領（舗装工事編）（案） T S等光波方式を用いた出来形管理の監督・検査要領（舗装工事編）（案） T S（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理の監督・検査要領（舗装工事編）（案） 地上移動体搭載型レーザースキャナを用いた出来形管理の監督・検査要領（舗装工事編）（案）	国土交通省

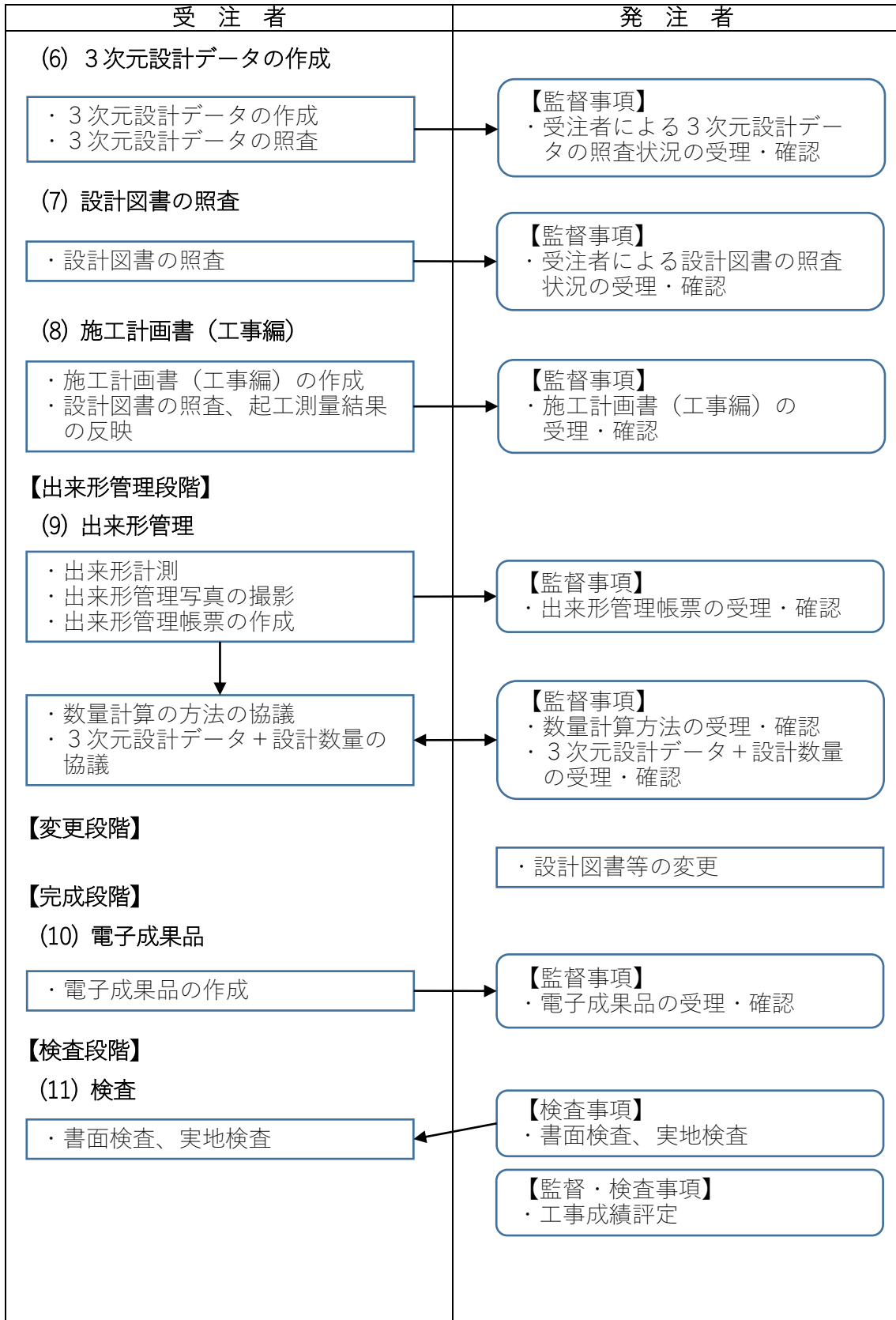
ICT活用工事（舗装工）の発注の流れ



施工条件書に明示して発注

ICT活用工事（舗装工）の実施手続き





(様式 1)

I C T 活用工事計画書 (舗装工)

当該工事において、I C T 施工技術を活用する施工プロセス・作業内容を選択し (☑を記入)、採用する技術を「適用技術」欄から選択して番号を記入する。

施工プロセスの段階	作業内容	採用する技術番号	適用技術
<input type="checkbox"/> ① 3次元起工測量			1 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 2 トータルステーション等光波方式を用いた起工測量 3 トータルステーション (ノプリズム方式) を用いた起工測量 4 地上型移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 5 その他の3次元計測技術による起工測量 (その他の技術名称:)
<input checked="" type="checkbox"/> ② 3次元設計データ作成※			※3次元出来形管理、I C T 建設機械による施工に用いる3次元設計データを作成する。
<input type="checkbox"/> ③ I C T 建設機械による施工	<input type="checkbox"/> 路盤工		1 3次元MCモーターグレーダ 2 3次元MCブルドーザ
<input checked="" type="checkbox"/> ④ 3次元出来形管理等の施工管理※	<input type="checkbox"/> 出来形		1 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 2 トータルステーション等光波方式を用いた出来形管理 3 トータルステーション (ノプリズム方式) を用いた出来形管理 4 地上型移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 5 その他の3次元計測技術による出来形管理 (その他の技術名称:)
<input checked="" type="checkbox"/> ⑤ 3次元データの納品※			

※必須項目 : ② 3次元設計データ作成、④ 3次元出来形管理等の施工管理、⑤ 3次元データの納品